

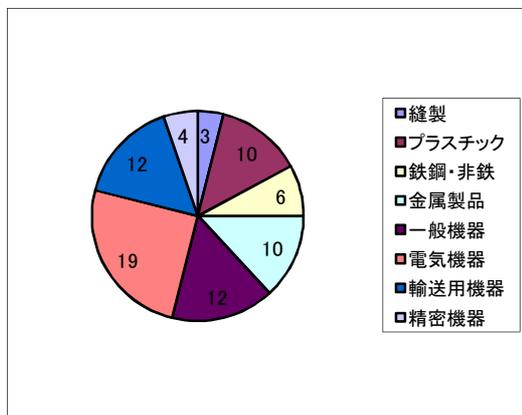
発注動向

-2011.8-

- 調査時点 平成23年7月調査(平成23年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12末時点)
- 回答企業 76社(回答率:50.7%)

<業種内訳>

縫製	3	4.7%
プラスチック	10	15.6%
鉄鋼・非鉄	6	9.4%
金属製品	10	15.6%
一般機器	12	18.8%
電気機器	19	29.7%
輸送用機器	12	18.8%
精密機器	4	6.3%



■ 全業種総合

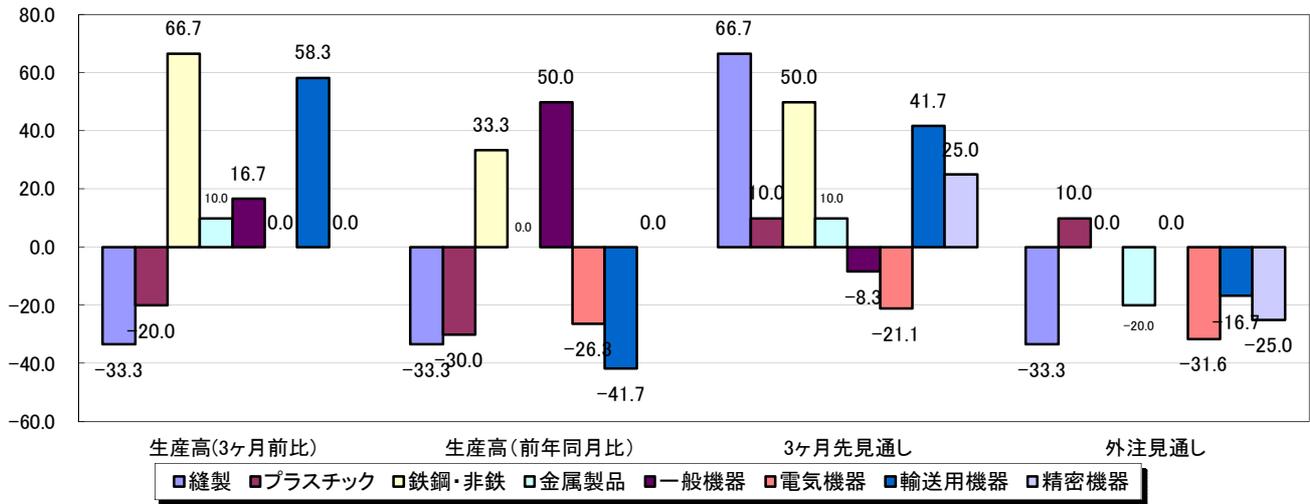
生産高は3ヶ月前との比較で14.5(前回▲7.8)と、3月の震災からの回復の兆しが見られ、前回調査時と比較しても22.3ポイント改善し、マイナスからプラスに転じている。しかしながら、生産高の前年比較となると▲7.9(前回10.4)で18.3ポイント悪化となり、震災以降、生産高が回復してきてはいるものの、前年ベースまでは依然戻っていないようである。3ヶ月先見通しとしては、10.5(前回▲22.1)で32.1ポイント改善を示しており、自動車業界を筆頭に一層の生産回復の見通しがあることがうかがえる。外注見通し▲14.5(前回▲24.7)は、前回調査時よりは改善してはいるものの、依然マイナスの数値を示している。

【全業種総合 DI値推移グラフ】



■ 業種別

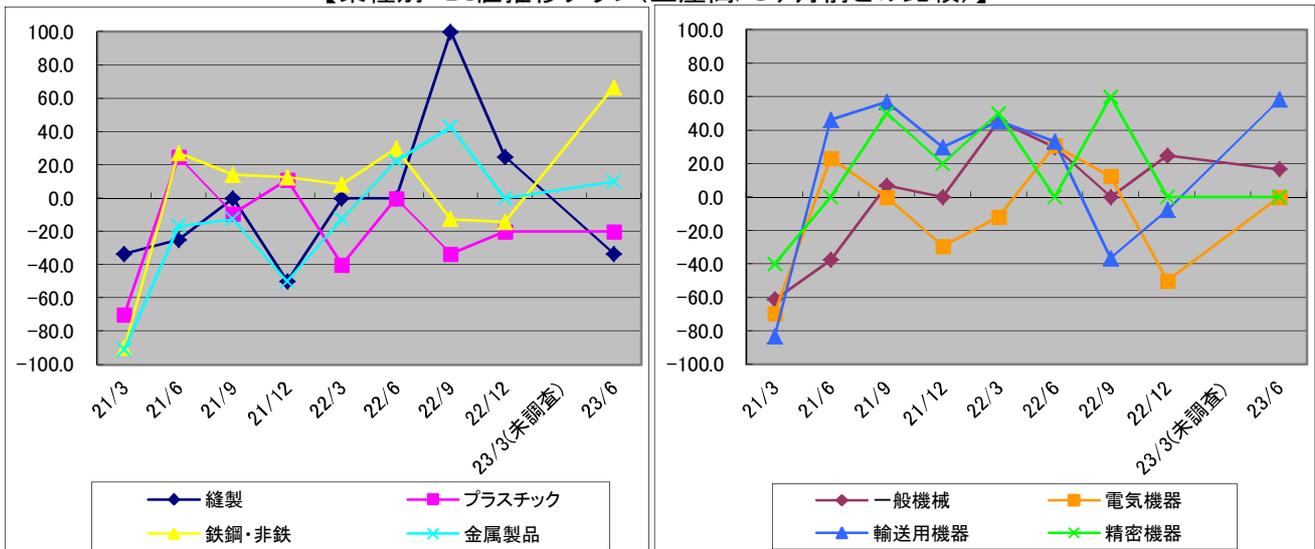
【今回調査結果DI値】



■ 生産高(3ヶ月前との比較)

3ヶ月前(震災時)から比較すると、多くの業種で生産高はプラスに転じており、震災からの回復の兆しが見られる。特に鉄鋼・非鉄が66.7(前回▲14.3)で81.0ポイント改善、輸送用機器が58.3(前回▲7.7)で66.0ポイント改善と、前回調査時のマイナスから大きくプラスの値を示した。しかしながら、縫製業は▲33.3(前回25.0)と、前回調査時よりも大きく悪化しており、受注が依然として戻っていない様子がうかがえる。

【業種別 DI値推移グラフ(生産高/3ヶ月前との比較)】



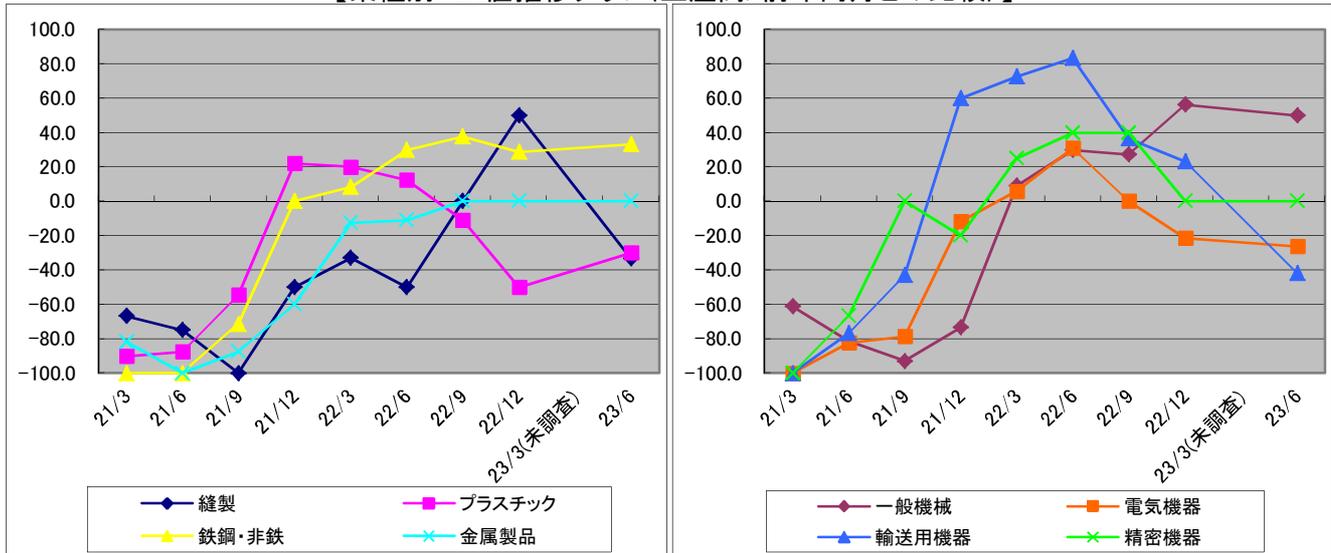
■ 生産高(前年同月との比較)

前問の3ヶ月前比較では多くの業種でプラスを示してはいるものの、前年比較となると、依然として前年ベースには戻っていない業種も見られる。

特に輸送用機器では▲41.7と、6月頃から徐々に生産高は戻ってきてはいるものの、調査時点では依然前年ベースには戻っていないようである。

一方で、鉄鋼・非鉄が33.3、一般機械が50.0とプラスの数値を示し、前回調査時からほぼ横ばいとなった。

【業種別 DI値推移グラフ(生産高/前年同月との比較)】



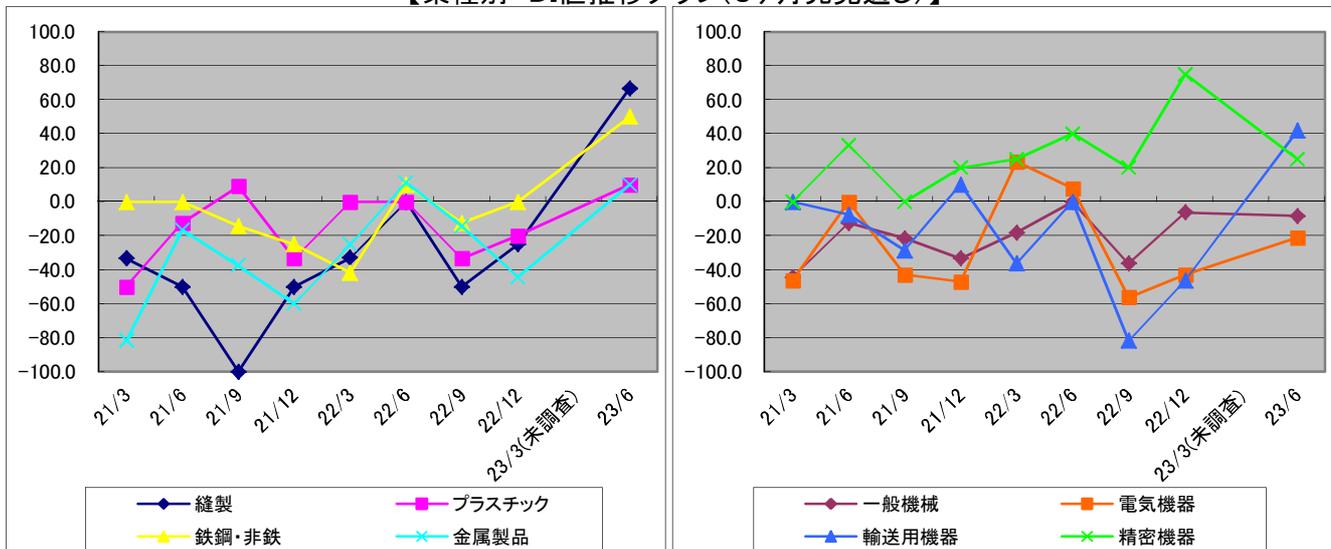
■ 業況3ヶ月先見通し

3ヶ月先の見通しは、多くの業種でプラスを示している。

特に輸送用機器は、秋以降の自動車の増産の動きから、41.7(前回▲46.2)と前回調査時から87.9ポイント改善と、大きくプラスに転じている。

一方で、電気機器は▲21.1(前回▲42.9)と21.8ポイント改善してはいるものの、依然数値はマイナスを示しており、先行きは不透明なようである。

【業種別 DI値推移グラフ(3ヶ月先見通し)】



■ 外注見通し

外注見通しは、前回調査時よりは改善に向いている業種が多いものの、依然として数値はマイナスを示している。震災以降生産高は戻りつつあるものの、依然外注見通しは厳しいようである。その中で、プラスチックは10.0(前回▲20.0)と改善し、若干ながらプラスの値を示した。今後期待される生産高の増加に呼応して、外注が増加することを期待したい。

【業種別 DI値推移グラフ(外注見通し)】

